

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2023年2月分)

2023年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[BH憲法裁判所によるRS資産登記関連法の一部差し止め\(2日\)](#)

●[閣僚評議会における国家予算の承認\(15日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦大統領・副大統領の就任\(7日\)](#)

●[OHR前での抗議集会\(31日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[RS刑事法改正案\(23日\)](#)

●[米・英大使館との協力停止決議\(23日\)](#)

ウ ブルチュコ特別区

●[カドリッチ市長の解任\(15日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[クリシュト閣僚評議会議長のブリュッセル訪問\(20～21日\)](#)

●[ツビヤノビッチ大統領評議会議長のNY訪問\(22日～24日\)](#)

(2) 二国間関係

●[堧・伊両外相のBH訪問\(10日\)](#)

●[BH情報・治安庁前長官等に対する米国の制裁\(15日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[Friends of Japan の開催\(21日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●BH憲法裁判所によるRS資産登記関連法の一時差し止め(2日)

2日、BH憲法裁判所は、RS資産登記関連法(シュミット上級代表による2月27日のボン・パワー行使で一時差し止めとなった)につき、同法の違憲性を判断する最終決定を下すまで、同法の効力を一時差し止めする旨決定した。同法に対しては、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク系メンバー、コムシッチ同クロアチア系メンバーはじめ、ボシュニャク系の政党・議員等から憲法裁判所への違憲性判断要請(計4件)が提出されていた。

●閣僚評議会における国家予算の承認(15日)

15日、BH閣僚評議会は第5回定例会合において2023年度予算案を全会一致で承認した。予算(歳入)の総額は13億1,540万KMであり、2022年度予算から2億4,180万KM(23%)の増額となった。また、12億4,596万6362KMが対外債務の返済に計上されている。歳入については、間接税による税収が10億2050万KM計上され、前年比で1,550万KMの増額。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦大統領・副大統領の就任(7日)

7日、BH連邦下院における審議結果が中央選挙管理委員会で承認され、リディヤ・ブラダ連邦大統領(クロアチア系、HDZ)、イゴル・ストヤノビッチ連邦副大統領(セルビア系、SDP)、レフィク・レンド連邦副大統領(ボシュニャク系、SDA)が正式に就任した。この後、連邦大統領による連邦首相候補・政府発足決定の法的期限は4月6日。

●OHR前での抗議集会(31日)

31日、OHR前で主にボシュニャク系市民によるシュミット上級代表への抗議デモが開催された。本件はBH連邦政府発足に関し、シュミット上級代表によるボン・パワー行使の可能性があるとされたこと、及び昨年10月2日の選挙法等改正への不満によるもの。

集会では、民族差別的な政策への反対、シュミット上級代表の辞任要求、当地米大使への批判等が行われた。集会は特段の衝突等なく平和裏に終了。

イ スルブスカ共和国(RS)

●LGBT団体への襲撃事件(8日～18日)

3月、バニャ・ルカではLGBT活動家等への暴行事案が発生。18日にはLGBT関係の行事の開催が予定されていたところ、安全上の理由から警察により中止が命じられており、同日夜に事案が発生した。

ドディックRS大統領及びスタニブコビッチ・バニャ・ルカ市長は、いずれもLGBT団体によるバニャ・ルカでの行事開催に否定的なスタンスを示しており、ドディック大統領は、今後LGBT団体関係者の学校等への立ち入りを禁ずる法律を採択する意向を表明した。

●RS刑事法改正案(23日)

23日、RS国民議会は、RS刑事法の改正案を採択した。同案は2001年に刑事法から削除された名誉毀損の刑事罰規定を復活させ、罰金刑を課すものであり、国内ジャーナリスト及び国際社会より、言論の自由への圧力であるとして批判が行われている。法案は採択後60日間の公開討論にかけられている。

●米・英大使館との協力停止決議(23日)

23日、RS政府は、在BH米国及び英国大使館との公的レベルの協力関係を解消する旨決定した。今般の決議は「両国大使館によ

る反デイトンの行為、国際法違反、ウィーン条約違反、国連憲章違反」を理由とし、「両国がBHへの内政干渉を停止するまで」継続するとされている。この決定により、RSの公的機関（各行政府、地方自治体等）には、当地米・英大使館との接触を断つことが要請される。

ウ ブルチュコ特別区

●カドリッチ市長の解任(15日)

15日、ブルチュコ市議会においてカドリッチ市長(ボシュニャク系、SDA)の解任に係る審議が実施され、賛成多数で解任が決定。後任はニシッチ市長(SBiH)。

ブルチュコ市議会ではSDA、SDP、SBiHが連立を組んでいたが、市当局人事をめぐるカドリッチ市長と他2政党の対立関係が深刻化。SDP及びSBiHはSDAとの連立を解消しNiP及びSBBとの4政党連合を発足させ、カドリッチ市長の解任を発議した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●クリシュト閣僚評議会議長のブリュッセル訪問(20～21日)

20日から21日、クリシュト閣僚評議会議長はブリュッセルを訪問。ミシェル欧州理事会議長、フォン・デア・ライエン欧州委員長、ボレル上級代表、ヴァールヘイ欧州委員、メツォラ欧州議会議長等と会談したほか、欧州議会外交委員会でも演説を実施した。

クリシュト議長は、BHのEU加盟を最優先事項と位置づけるとともに、特にバルカン地域を経由する移民の問題について強い関心を表明。また、特にBH大統領評議会メンバー選挙におけるクロアチア系の選出方法に強い不平等があると強調し、政治的安定のためにBH

選挙法の改正が必要であると述べた。

●ツビヤノビッチ大統領評議会議長のNY訪問(22日～24日)

22日～24日、ツビヤノビッチ大統領評議会議長(セルビア系)はニューヨークを訪問し、グテーレス国連事務総長、クールシ国連総会議長、屈冬玉・国連食糧農業機関事務局長及びピルツ＝ムサル・スロベニア大統領等と会談したほか、「持続可能な水」会議において演説を行った。ツビヤノビッチ議長は、BHにおいて水力発電所開発が経済的に大きな利益となると指摘。しかし、BHの一部政治家によってRSがセルビア本国と実施している水力発電所建設計画が不当に妨害されていると述べた。

(2) 二国間関係

●ボーン・仏欧州問題担当長官のBH訪問(7日)

7日、ボーン・仏欧州問題担当長官がBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク系メンバー及びカリッチサラエボ市長等と会談を行った。ボーン長官はBHの主権及び領土一体性を支持し、BHのEU加盟を支援するとの姿勢を改めて強調したほか、会談では仏・BH間の合意・MOUの締結、マクロン仏大統領主導による欧州政治共同体(EPC)等が話題となった。

●ザラツィン独西バルカン特使のBH訪問(8日)

8日、ザラツィン独西バルカン特使がBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク系メンバー、クリシュト閣僚評議会議長、シュミット上級代表とそれぞれ会談を実施した。

ザラツィン特使は、BHのEU加盟へ向けたドイツによる具体的な支援の検討について言及したほか、ベルリン・プロセスの枠組みにおけ

る地域協力の推進の重要性を強調した。

●堧・伊両外相のBH訪問(10日)

10日、シャレンベルク・オーストリア外相とタヤーニ・イタリア外相は共同でBHを訪問。BH大統領評議会メンバー、クリシュト閣僚評議会議長、コナコビッチ外相等と会談し、ロシアによるウクライナ侵攻という地政学的情勢の変化の中で、西バルカン地域の持つ重要性の高まりにつき言及し、当地域の早急なEU加盟の必要性を指摘した。BH側要人も、EU加盟プロセスの加速の必要性につき述べ、改革への前向きな姿勢を表明。

●ゴロブ・スロベニア首相のBH訪問(13日)

13日、ゴロブ・スロベニア首相はBHを訪問し、大統領評議会メンバー、クリシュト閣僚評議会議長、チョービッチHDZ党首等と会談した。ゴロブ首相は両国の長年の友好関係に言及し、BHのEU加盟への強い支持を表明したほか、スロベニアからBHへのさらなる投資の潜在性を指摘。特に再生可能エネルギー分野への投資に今後注力していくと発言した。

●BH情報・治安庁前長官等に対する米国の制裁(15日)

15日、米国国務省及び財務省は、地域における法の支配及び安定と民主主義の正常な機能を脅かしているとして、BHの個人に対する制裁(米国内の資産凍結、制裁対象との取引の禁止)を発表した。対象は以下の3名。

- ・オスマン・メフメダギッチBH情報・治安庁(OSA。組織犯罪、テロリズム等に係る情報収集等を担当)前長官(汚職及び職位を利用した対立候補等の情報収集、盗聴等)

- ・ドラガン・スタンコビッチRS測地・資産管理局長(国有資産の一方的な移管に関与)

- ・エディン・ガチャニン(BH国籍。麻薬密輸、資金洗浄等の組織犯罪に関与)

(3)日・BH関係

●Friends of Japan の開催(21日)

21日、大使公邸にて「Friends of Japan」レセプションが開催され、元文科省国費留学生、MIRAIプログラム参加者等の日本留学経験者、渡日経験者、日本文化関係者等が参加した。レセプションでは餅つきや日本・BHについてのクイズ等が催された。杵淵駐BH日本大使は、渡日経験者による日・BH交流促進への期待を述べた。



3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2022年2月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比0.7%のマイナス、前年同月比で3%のマイナス。

●雇用／失業率

2023年1月の失業者登録数は35万4,700人(うち女性20万6,099人)で、前月比0.7%マイナス。前年同月比で6.2%マイナス。

●平均給与

2022年1月の平均給与(手取り)は1,209 KMで、前年同月比で15.9%のプラス。

●消費者物価指数

2022年2月の消費者物価指数は前月比で0.4%のプラス。また、前年同月比で平均12.9%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比で平均1.3%の上昇。

(2) 経済政策・公共事業

●ゼニツァ鉱山におけるストライキ等(24日～31日)

ゼニツァ市では、賃金の未払い、食糧の供給遅れ等を理由として引き続きゼニツァ鉱山の労働者による抗議活動が実施され、24日にはストライキにより一時生産が停止した。また、27日には一部の労働者がハンガーストライキを決行した。28日以降複数回にわたりゼニツァ市庁舎前で行われた抗議集会には数百人の労働者が集まり、賃金の支払い等を求めた。31日には、ゼニツァ市へ入る道路の入り口がバリケードで封鎖された。

(3) 経済協力

●エネルギー価格高騰を受けた一般家庭支援等を含むEUの大規模支援策(16日)

16日、BH閣僚評議会は、EUが全額出資する7000万ユーロ相当のエネルギー分野で

の支援パッケージに基づく行動計画を承認した。EUの同支援を通じ、ロシアによるウクライナ侵略に起因するエネルギー価格上昇で困窮するBH一般世帯及び中小企業への支援(それぞれ、5000万ユーロ、1000万ユーロ規模)、BHのエネルギー効率改善支援(2000万ユーロ)が実施される見込み。

(4) 民間セクター

●トルコ企業による投資の可能性(15日)

15日、トルコ商工会議所と共に、同国企業関係者がサラエボを訪問し、BH企業関係者と将来の投資等について意見を交わした。特に関心の示された分野は農業、動物飼料、農業用機械の生産、繊維工業、建設業、野菜及び果物の加工等。